

亂

〔大上鵬御名之事〕女房ことば

一すし すもじ

〔御湯殿の上の日記〕慶長八年七月一日、しやうぐん、徳川家康よりすもじの桶二ツ参る、八月七日、徳川家康よりすもじのおけ参る、

〔紀伊續風土記 物産十〕魚鮮

本國にて魚鮮の製數種あり、略又在田日高兩郡にて鹽魚を以て馴鮮といふを製す、

早鮮

種類
鮮

〔嬉遊笑覽^十 飲食^上〕むかしの鮮は飯を腐らしたるものにて、みな源五郎鮎の鮮の如し、早鮮といふも一夜ずしなり、料理物語、一夜ずしの仕様鮎の鮮を苞に入焼火にあぶりておもしろをつよくかくる、又は柱に卷つけてまめたるもよし、一夜にてなる、といへり、此外鹽魚干魚等を漬ること、雍州府志などに見えたり、

〔難波江^四〕鮮

今江戸ニアル鮮ハ、延寶ノ頃、御醫師ノ松本善甫ト云モノ、新製ナリ、コノ家ハ、其後亡ビタリシガ、近來再ビ召出サレテ高百俵、サレバ世ニ松本鮮ト云、彦根ノ鮎ノ鮮、尾州ノ鮎ノ鮮ナドハ、魚ト飯トヲマゼテ五六日モ經テ食フナリ、吉野近邊ニテ、粟ノ飯ニテ造ル、二三ヶ月モカコハル、ナリ、コレ等ノ鮮ハ、右ヨリ左ニハ出來兼ル故ニ、アキナフ者ニアツラフルニ、今日ヨリ幾日經テ取ニ來給ヘト云ニヨリ、コレヲオチヤレズシト云、松本鮮ハ、直ニ出來故ニ、マチヤレズシト云、又早鮮トモ云ナリ、元來スシハ上件ノ如ク、飯ト魚トヲマゼテ置ニ、日數經レバオノヅカラスミノ出ルモノニテ、酢ヲ加ヘテ製スルモノニアラズ、鮎ノ字ヨリハ、鮮ノ字ノ方ヨロシ、字書ヲ觀テシルベシ、
コノ一條ハ、亡友狩谷棧齋ノ説話ナリ、